

#### (4) ①様式第4号-2 (報告書)

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS カフェ報告書	実施機関名・連携機関名
※ 機構 記入 欄 No.	鳴門教育大学教職大学院・鳴門市教育委員会
:	セミナー名：【NITS カフェ in 鳴門】
-	教師力向上をめざして - 若手も先輩も！みんなで語り合おう！ -

#### テーマ：「若手教員の教師力向上に向けた取組」

近年、教員の大量退職・大量採用等により、先輩教員から若手教員への指導技術の継承が困難な状況となっている。そこで、関係機関が連携協力し、学校現場のニーズに即した継承内容や方法を提案・実践することにより、若手教員をはじめとする教員の教師力向上を図ることが重要である。

そこで、企画にあたり、まず鳴門教育大学と鳴門市教育委員会が連携協力して、鳴門市内の新任教員へのニーズ調査や実態調査等を行った。今回、その中から要望の多かった学級経営や授業実践についての講演とともに、若手教員の「他の先生方から学びたい」という願いを実現できるよう、多様な立場の参加者で意見交流ができるよう、グループ・ディスカッションの時間も設けた。日頃は出会うことが少ない他校種・他校の若手教員や先輩教員、教師をめざす鳴門教育大学院生が、本 N I T S カフェを通して一堂に会することは、さらなる知識を得るとともに、新たなネットワークを構築し、教師としての視野を広げることにつながる。さらに、本会での学びをシェアリング、発信することで、各学校における教育力の向上や組織の活性化を図るとともに、本学の今後のカリキュラム改善にも反映させる。

#### 内 容：1. 講演「誰もが話したくてたまらない学級づくり・授業づくり」

教師は、目の前の子どもたちの健やかな成長を願い、真摯に教育活動に取り組んでいる。その中で、互いに学び合える学級づくりや、誰もが主体的に取り組める授業をめざしているが、日々の忙しさに追われ、じっくりと自身の取組を振り返ることが難しい現状がある。特に経験の浅い若手教員にとっては、毎日の業務を行うことに精一杯であり、先輩教員の指導技術を学んだり、教材研究の重要性を再認識したり、意見交流したりできる機会はそう多いとはいえない。

そこで講演では、実際に、講師に詩の授業を展開していただき、参加者が子どもの立場になって国語科の模擬授業を受けることができるようにした。参加者は、・どの子の学びも保障すること ・学びを他者と共有すること ・話すことができる子を育てるには、聞くことができる子を育てる ・子どもがワクワクするような授業づくりを行うことの大切さなどを、実感を伴いながら学ぶことができた。受講者アンケートからは、「本当に自分が児童に戻って授業を受けている気分になった。心からおもしろいと思う授業を一つでも多くできるように学び続けたい（小学校教員 2 年目）」「教師という仕事の素晴らしさを再確認した（小学校教員 25 年目）」といった感想が多く見られた。

#### 2. グループ・ディスカッション「学んだこと・今後活かせること」

「学んだこと・今後活かせること」を付箋紙に記入し、理由も含めて意見交流・協議を行った。各グループともに、他校の若手・先輩教員、本学院生が混在するように構成した。初対面の参加者がほとんどであったが、全員が同じ体験（模擬授業）を共有していたこと、かつ経験豊富な教員の進行により、各グループで活発な話し合いがなされた。シェアリングでは「学んだことをすぐに活用できる場を作ること」「友達と意見を出し合う楽しさを実感させること」など、新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」にむけた授業の在り方や教材研究、仲間づくりの大切さなど多くの気付きや学びが発表された。アンケートからは「自分だけでは吸収しきれなかった気付きや視点に気付かせていただいた（臨時教員）」「授業することの難しさや悩みを、先輩の先生と共有できた（小学校教員 1 年目）」「先輩教員のまとめ方や一つ一つの意見に対する答え方が勉強になった（小学校教員 1 年目）」「ディスカッションがあり意見交換できた（院生）」など、特に若手教員や院生にとって、価値ある意見交流の場になったことがうかがえた。

#### 3. 質疑応答

講演の中で話が出ていた児童の様子を、動画で見せていただいた。育てたい子どもの姿がイメージでき、「言葉の力を子どもにつけることの大切さを感じた」「言葉の使い方、進め方などとても勉強になった（中学校教員）」といった感想が寄せられた。

**成 果：**受講者アンケートにおいて「講演を聞くだけでなく、参加させていただいて、教室に身を置くようで、楽しく見にしみこんでいくようだった」「これが楽しく分かる授業なんだと感じた」「知的好奇心をゆさぶられた」「自分ごととして考え、発信し、理解を深めることができた。何より、心がワクワクした」「先生が子どもに向き合う時のお考えや姿勢がよく分かり、大変参考になった。基本的なことなのに、忘れていたと思うこともありよかった」などの意見が、若手教員・先輩教員、本学院生から多く聞かれた。講演について、4 件法で「とてもよかった」「概ねよかった」と肯定的回答が約 98%であった。グループ・ディスカッションについても「講演での学びを整理し、可視化することができた」「どんなことを取り入れてやってみたいかなど、他の先生の感じたことを聞くことができたのでよかった」といった感想が多く見られた。時間設定についての意見「もう少し時間がほしかった」「もう少しいろいろな意見交換ができればよかった」「もう少し時間があれば、もっと様々な内容についてお話できたと思う」や、限られた時間の中で活発に話し合いをされていた先生方の熱意を、今後にぜひ活かしたい。

#### アイデアや工夫したこと：

- ①講演については、模擬授業による体験参加を取り入れたり、ICT 機器を活用したりしていただいた。参加者は、実際に授業を受けたことで、子どもたちの立場に立って考えることができ、自身の実践を振り返ることとなった。また授業イメージを全員が共有できたことが、後でのグループ・ディスカッションの活性化につながった。
- ②グループ・ディスカッションにおいて、多様な立場の方々の意見が聞けるように、メンバーを工夫した。また、経験豊富な先輩教員に進行を依頼するとともに、参加者全員が限られた時間で見通しをもって協議できるように、事前に進め方のワークシートを配布した。
- ③事前に付箋紙を配布し休憩時間を活用し、付箋紙に意見を記入してもらうようにした。このことで、全員参加のディスカッションを展開できるようにした。

<写真・図など>

(1) 開催日時：令和元年 12 月 24 日（火）9 時 00 分～12 時 15 分

(2) 開催場所：鳴門教育大学

施設の名称：鳴門教育大学地域連携センター（3 階）  
独立行政法人教職員支援機構・  
四国地域教職アライアンス鳴門教育大学センター

(3) 参加予定人数と参加者の属性

鳴門市教育委員会	4 名
鳴門教育大学教職大学院教員	6 名
鳴門教育大学教職大学院生	35 名
鳴門市内外若手教員及び先輩教員	32 名

(4) 進行プログラムの概要

1 講演

「誰もが話したくてたまらない 学級づくり・授業づくり」

講師：桃山学院教育大学 教授 二瓶 弘行 氏

2 グループ・ディスカッション

- ・参加者を 10 グループに分ける
- ・二瓶先生の講演から学んだことや、これから実践したいことを付箋に書く。
- ・グループで意見を交流する。

3 質疑応答

- ・各グループから出された意見を共有し、質疑応答を行う。

(5) NITSカフェ in 鳴門の様子



【 受付の様子 】



【 オリエンテーションの様子】



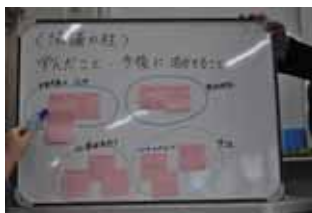
【 挨拶：鳴門市教育委員会 安田教育長 】



【 講演：桃山学院教育大学 教授 二瓶 弘行 氏 】



【 講演の様子 】



【 グループ・ディスカッションの様子 】